

喜堂

二〇〇四年五月二八日、金曜日。東京駅で母と待ち合わせて、東北・山形新幹線で山形駅へ。弟が出迎えてくれた。駅前から路線バスで、弟が予約してくれていた中桜田温泉「ウエルサンピア山形」に向かう。

翌朝、山形駅からJR仙山線に乗り二〇分ほどで山寺駅へ。そこから徒歩で宝珠山立石寺、通称山寺へ。弟が山寺観光ガイドの方を予約してくれていて、根本中堂の前あたりで落ち合う。根本中堂は立石寺という御山全体の寺院の本堂に当たる御堂である。堂内では、本尊として慈覚大師作と伝えられる木造薬師如来坐像をお祀りし、脇侍として日光・月光両菩薩と十二支天、その左右に文殊菩薩と毘沙門天を拝することができる。まずは松尾芭蕉像と句碑の説明と記念撮影からスタート。

ガイドの人の説明を聞きながら、山門から始まる長い階段をゆっくりと上がって行く。説明によれば石段の数は八百段以上だという。観光客は多いのだが、老木の緑に囲まれて静かだ。途中、せみ塚というところで休憩。松尾芭蕉に連なる弟子たちがこの地を訪れた時に、芭蕉が句の着想を得た場所だとして、短冊を土台石の下に埋めて、この塚を立てたという。

開山堂は立石寺を開かれた慈覚大師の御堂で、百丈岩の上に立てられている。扉が閉じられているが、大師の木造の尊像が安置されている。隣の赤い小さな御堂は山内で最も古い建物だそう。奥之院で写経された法華経が納められている納経堂である。

山内には五〇余の建物が存在している。説明を聞きながら、さらに上へ上へと進んでいく。参道の終点が奥之院だ。



K O さ く ら き 堂 雪 M